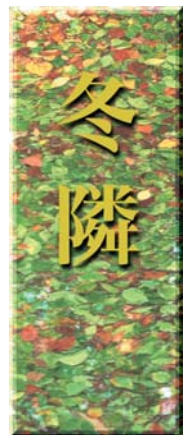


第47号

酪農とちぎ



木々の衣替えも終り、木枯らしの便りも聞こえはじめ、静かに冬の足音が近づいて参りました。

組合では十一月五日より、宇都宮支所がふれあい牧場敷地内に移動し、ふれあい牧場・診療課とともに仮事務所での業務を開始し、今後も同地で事業を推進して参ります。また、関東生乳広域検査所の工事を、年内の完成を目指し着工致しました。

皆さまにおかれましては、秋の農繁期も終わり、来期の自給飼料の生産等に思慮しているところかと思いますが、昼夜の気温差が大きく風邪をひきやすい時期でもありますので、自身の体調にもお気遣い頂きたいと存じます。



上半期事業実績

生乳生産量の減少が

大きく各事業に影響



今年度も半年が経過しましたが、

飼料価格の高騰・生乳生産量の減

少・牛乳の消費低迷が重なり、昨

年と比較しても酪農情勢は大きく

マイナスの状況であり、生産者乳

価の値上げについて価格転嫁を切

望し、要請しているところです。

下期の計画生産については、牛乳

消費が低迷を続けているものの、

昨年からの計画生産が全国的に浸

透し、さらに飼料の高騰等の要因

が重なったことで乳製品の過剰在

す。

生乳販売事業

昨年度からの計画生産の影響に

より、組合員の皆様には大変なご

苦労をお掛けしております。その

ような状況下による上半期の生産

量は、前年比九六・九七%（関東

全体では九六・一%）となりました。

全国的に生産抑制がさらに進

んでいる状況となっており、乳製

品については、中国・ロシアを中

心とする経済急成長国の需要増加

の価格引き上げや、食料自給率を改善する為に農業の保護を促進する動きも見られ、今後の動向に注目し、生産基盤の弱体化を招かぬよう事業を進めてまいります。

市乳販売事業

牛乳消費量が全国的に前年割れの状況であり、牛乳の販売本数は前年比八三%の実績に留まりました。

しかし、供給先での販売応援

・消費拡大キャンペーンを実施し、

『那須だいきすき牛乳』をメインに

販売促進を行いました。その結果、

ヤマザキパン等で『那須だいきすき牛乳』を使用したパン・ケーキを既に販売しており、他メーカーも同様な製品を開発することが企画され、ブランドとして定着しつつあります。

今後も組合のメイン商品として品質を固持し、それに見合った評価を頂けるよう販売の促進を図って参ります。

購買事業

飼料穀物の需給逼迫、粗飼料生産地の不作の影響等が重なり、飼料価格は高騰し、酪農経営は大変

厳しい状況下での事業推進となりましたが、購買推進担当、指導・診療課及び飼料メーカーと連携し給与飼料の見直し、飼養管理の改善指導を行い、状況に適した生産資材の供給を行いました。また、

利用拡売については積極的な推進を行い、二十四戸の新規利用が獲得できました。更に、良質自給飼料の生産を促進するため、秋蒔き牧草種子に対し1kg当たり五十円の助成を実施しました。上半期飼料供給実績については濃厚飼料四五、一六七ト（前年比九四・一%）粗飼料二六、五二三ト（前年比九六・三%）の実績となりました。

指導事業

酪農経営の安定、ポジティブリスト制度への対応、各組織の充実強化を含め、飼料高騰による経営対策・良質乳生産の安定化に向け巡回指導等に取組みました。飼料

高騰の影響は大きく、経営対応に

厳しさが増す中、自給飼料の生産

等を推進し、経営の安定化を図つて参ります。



診療事業

乳房炎防除事業は、農業共済・家畜保健所・支所指導担当者による、乳房炎防除対策プロジェクトチームを立ち上げ、新たな取り組みを開始し事業の活性化を図りました。受精卵移植については、新たに那須模範牧場での受精卵移植を開始しました。また、定期繁殖検診の希望者を募り、計画の達成を推進致します。今後も定期繁殖検診による空胎期間の短縮・受胎率向上、乳房炎防除による高品質乳生産を推進し経営安定に努めて参ります。

改良事業

凍結精液及び受精卵配布事業の効率的運営に取組み、冷媒補給を精液配布日に同時に行うなど効率化を進めました。また、民間A I事業体と業務委託を締結し、ニーズの高い優良和牛精液の供給に努めるとともに、登録事業の簡便化を図るため自動登録の推進を行いました。その結果、大口の移動登録も重なり、計画を上回る実績となりました。

牧場事業

ふれあい牧場において、入場検査時のBLV陽性牛の発生等により計画の預託頭数が確保できませんでした。

さらに、昨年の長雨の影響による貯蔵品の品質低下や牧草収量の減収等の要因で、急遽TMR飼料を給与したため、購入飼料費が増加しました。土上平放牧場・霧降高原牧場については、疾病・事故等の発生もなく計画を上回る実績です。また、発情同期化・受精卵移植等も積極的に取り組み受胎率向上に努めて参ります。

施設合理化

計画に基づき手続きを進めており、県央地域の合理化については、ふれあい牧場の景観整備・仮事務所等が完成し、十一月五日より仮事務所支所の事業を開始致しました。また、本所一階に関東生乳販連の広域検査所の改修工事も着工し、今年末の完成を目指します。さらに、遊休資産の売却・活用についても進めて参ります。

栃木県酪農フェア2007開催

十月六日(土)冷秋とは思えぬ暑さの中、栃木県酪農フェア(栃木県酪農協会主催)が那須塩原市の栃木県酪農試験場にて開催されました。栃木県酪農試験場公開デーと同時に開催され、約一万人の来場者で終日賑わいました。

会場はミルクの国ゾーンと消費者とのふれあいゾーンに分かれ、ミルクの国ゾーンでは、第十九回栃木県ホルスタイン共進会が株式会社十勝家畜人工授精所と取締役営業部長山口寿典氏を審査員に迎え行われました。

今回は六十二頭の乳牛が勢揃いし、多くの消費者や酪農家が見守る中、厳正なる審査により、各部の序列が決定されました。上位入賞牛は別表の通りです。入賞者の皆様おめでとうございます。

また、消費者とのふれあいゾーンでは、搾乳体験や子牛の哺乳体験コーナー、子牛とのふれあいコーナー、ミルク王国フェアに多くの家族連れで賑わい歓声にまつまれました。

乳製品の販売コーナーも大人気で、早々に完売となり大盛況でした。中でも栃木県酪農青年女性会議が行った牛乳入り豚汁の無料配布が好評で、多くの方が列をなし、配布を始めて二時間足らずで、〇〇〇食分の豚汁が無くなりました。

大勢の方々に協力を得て盛会に終了することができ、酪農に対する消費者の理解が一層深まったものと確信しております。



第19回栃木県ホルスタイン共進会上位入賞牛一覧

優等賞 1 席

区 分	名 号	出 品 者	組 合 名	備 考
第 1 部	ロイマーチン アストロ チップス	那須塩原市箕輪 室井 忠則	酪農とちぎ	
第 2 部	マンウテンビュー マダム キット カット	矢板市高塩 山本 訓	酪農とちぎ	
第 3 部	マミーポッター ダーハム ビット	鹿沼市みなみ町 鹿沼農業高等学校	栃 酪	
第 4 部	タクヨウ マジカル チャンピオン	那須塩原市下永田 那須拓陽高等学校	酪農とちぎ	
第 5 部	プラントツリー ミドリ ジェット ジョーダン	日光市小林 植木 靖	栃 酪	
第 6 部	P F エルトン リバー	那須町大島 清野 剛之	酪農とちぎ	
第 7 部	プラントツリー AJY ギブソン	日光市小林 植木 靖	栃 酪	
第 8 部	パインツリー クリスマス イブ	那須烏山市小倉 中山 真介	酪農とちぎ	
第 9 部	コージー ロング ロイアーロン	市貝町赤羽 梶村 健介	酪農とちぎ	
第 10 部	エスペランサ レブロン レイジーファースト ダーハムET	那須烏山市小倉 中山 真介	酪農とちぎ	

名誉賞

褒賞区分	名 号	出 品 者	組 合 名	備 考
経産名誉賞	エスペランサ レブロン レイジーファースト ダーハムET	那須烏山市小倉 中山 真介	酪農とちぎ	ベストアダー
	プラントツリー ミドリ ジェット ジョーダン	日光市小林 植木 靖	栃 酪	ベストアダー
未經産名誉賞	ロイマーチン アストロ チップス	那須塩原市箕輪 室井 忠則	酪農とちぎ	
経産準名誉賞	コージー ロング ロイアーロン	市貝町赤羽 梶村 健介	酪農とちぎ	ベストアダー
	プラントツリー AJY ギブソン	日光市小林 植木 靖	栃 酪	ベストアダー
未經産準名誉賞	マンテインビュー マダム キット カット	矢板市高塩 山本 訓	酪農とちぎ	



東西南北

那須高原支所

バーンミーティングを開催

十月十二日、那須塩原市の八木沢光男牧場の協力を頂き、現場主義をモットーに、英国や米国等でコンサルタントとして活躍されているブルース・ウッドエーカー氏を講師に招き、指導・購買推進担当職員らが参加し、バーンミーティングを開催しました。

講師は、常にバーン内の糞の状態を見て牛の状況を把握する事が大切であると話され、併せてパドックでは蹄の問題をクローズアップし、跛行の要因としては、物理的要因（パドックで小石等を踏んだ衝撃による潰瘍）、栄養的要因（アシドーシス等により、蹄の血管が炎症を起こしたもの）、感染的要因（ウイルスによるもので、ひげイボ等）の三要因が関



与しており、これら要因による経済的損失が発生しない様、事前予防の重要性を説明されました。また、乳牛

飼養時の重要ポイントとしては、カウコンフォート・ルーメンの健康・餌の衛生・病気の予防・ワクチネーション・免疫力・観察及び記録の七事項が大切である事を話されました。さらに、指導・購買推進担当職員がアドバイスする際のポイントをお話し頂き、現場事情に即した勉強ができました。今後活用して参りたいと思います。

宇都宮支所

『簡易ミルクカーチェック講習会の実施について』

宇都宮支所の指導担当者及び、診療・購買担当者を対象に八月と九月の二回にわたり、簡易ミルクカーチェックの講習会を開催しました。実施にあたりミルクカー診断をマスターしている那須高原支所の渡辺係長を招き管内の三農場をお借りし、ミルクカーが正常に稼働しているか或いは衛生面は大丈夫かどうか簡単にチェックできるポイントについて学びました。具体的



なチェックポイントとしては、ライナーの汚れ、ねじれの確認、ゴム類の亀裂、長さの確認、真空圧の適正

な作動 調圧器の作動・汚れの確認 洗浄が適正に行われているかのたるみの確認 ユニットとパイプライン接合部（インレット）の角度などについての確認を行いました。この手法は、目視や聴覚で簡単に確認、調整することができ、メーカーによる定期的な点検に加え、生産者自らチェックを行い、搾乳機器を適正に使用することによって、乳房炎の発生を抑えることが可能であると思われます。今後この『簡易ミルクカーチェック』を各農場に普及し、高品質生乳の生産に繋がっていきたいと思います。

県南支所

飼料イネ収穫実演会

十月十七日、真岡市の高橋平治牧場の圃場にて、農業認定者・ニューファーマカレッジ・農業技術者連絡協議会の各畜産関係者三十数名の参加を得て、細断型飼料

イネ専用収穫機による実演会が開催されました。芳賀地域では転作田の有効利用と国産粗飼料確保の推進など飼料イネ生産を



営も実現出来る状況となり、このような手法を積極的に取入れ、現状の改善を図っていくことが必要と感じました。

軸として耕畜連携が進んでおり、今後も拡大が期待されています。飼料イネは専用品種であるクサノホシを六月一七日に植付し、出穂は九月十日、収穫は十月十七日となりました。収穫量は十アールあたり十個、サイズは直径一m、巾八〇cm、重量は約二八〇kgで、十アール当り八トンの堆肥を施肥したにも関わらず、倒伏する事もなく太さ七〜八mmの茎で分けつも旺盛でした。専用機はタカキタのWB-〇二〇型で、この型の特徴はディスクカッターで収穫物を三cmに細断、ダブルディスクで穂先と株元を均一に混合、チエーンパー方式で高密度に圧縮、ネット口スを少なくしつかりと梱包するものです。梱包状況は、穂先・株元が均一に混合され、無駄なく梱包されていました。この機種は五条刈で約千二百万円弱、販売は二十年夏に予定されています。今回の研修の中で、堆肥処理も含めた、一般農家との耕畜連携を進めた経



部課だより

生乳販売課

生乳生産量九月度前年比九七・八%、上半期（四月～九月）は九七・〇%

九月度の生乳生産量は一七、二七五トン（前年比九七・八%）となりました。

九月度の支所別生乳生産量をみると、那須高原支所においては前年比九九・二%、宇都宮支所九八・四%、県南支所九三・九%の実績となりました。

また、上半期の累計生乳生産量は一〇九、五一六トン（前年比九七・〇%）となりました。支所別の累計生乳生産量をみると、那須高原支所においては六五、四二三トン（前年比九六・八%）、宇都宮支所一八、二〇〇トン（九九・七%）、県南支所二五、八九三トン（九五・八%）の実績となりました。

九月度、関東においては前年比九五・九%で累計では九六・一%となりました。

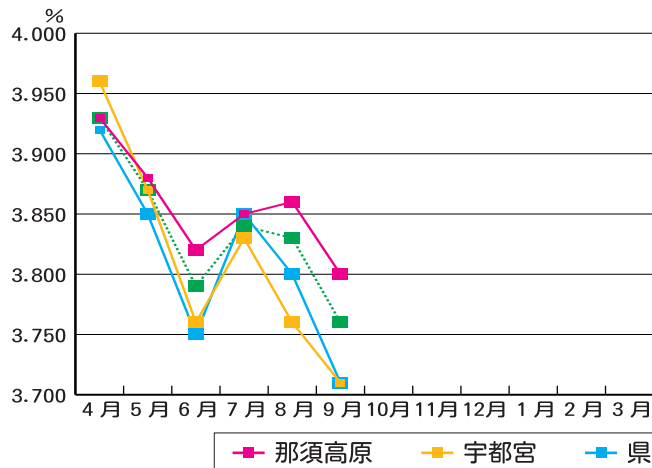
関東の九月の特定乳製品向けについては二・二三%（前年二・一七%）と前年より加工率は僅かに増加しました。飲用牛乳向けは五・九%の減また、累計においても四・六%の減と飲用需要の低迷が続いております。また、九月のはつ酵乳向けについては前年比一〇三・六%（累計一〇一・六%）となっております。

全国の生乳生産量においても九月度（前年比）九八・三%、累計実績では九八・二%となりました。組合における九月度乳質成績は、脂肪率が三・七六%、無脂固形分率は八・七三%となりました。細胞数については二二・二万（前年二二・〇万）となりました。

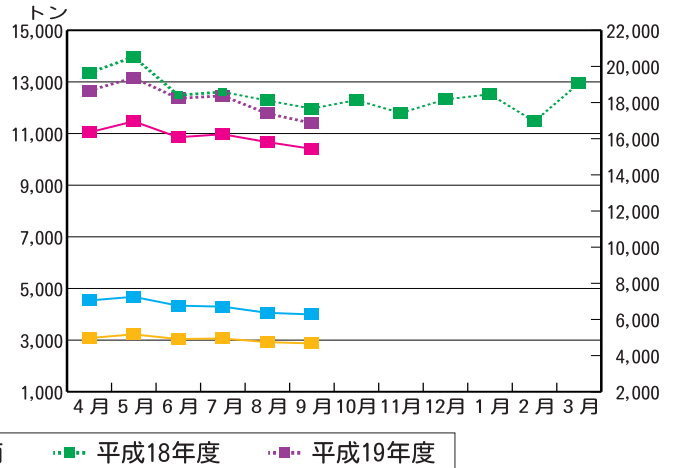
また、上半期に不良乳が十四件発生し前年より三件の増となってしまいました。

九月迄の乳量及び乳質成績は下記のとおりです。

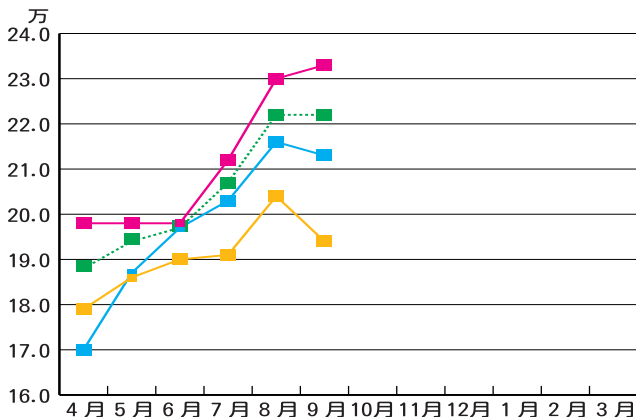
◆ 脂肪率の推移



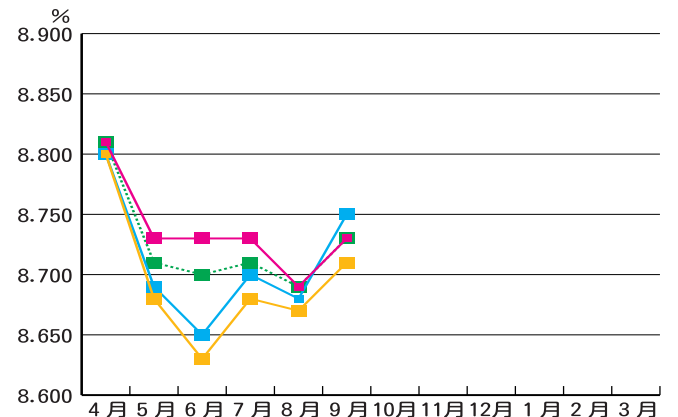
◆ 乳量の推移



◆ 体細胞数の推移



◆ 無脂乳固形分率の推移



購買部

第三回飼料価格高騰の畜産をめぐる状況変化への理解醸成のための中央推進協議会（農水省主催）

（飼料高騰に伴う価格転嫁問題で活発な意見交換（傍聴））

日本乳業協会の浅野茂太郎副会長は乳業を代表として出席し、製品価格の単純な引き上げには消費減のリスクが伴い、飼料・原料情勢に対する消費者の理解が不可欠と強調した上で、「大きな環境変化を前に我々酪農乳業界は柔軟に対応すべき新たなステージに入った。」と述べ、将来的な価格引き上げを示唆しました。また、「コストの上昇による酪農家の苦労は分かるが、乳業側も原料や包材、原油等のコスト上昇に苦労している。」と述べた一方で、「生産者の置かれた状況を良く見ながら、品質や周辺価格情勢を踏まえて適切に判断する必要がある。」と語り、消費者に対して理解の醸成を強く求める乳業の立場を訴えました。

中央酪農会議の門谷廣茂専務は、「酪農家は二年連続の計画生産で大変厳しい経営状況だ。特に飼料価格高騰の影響が大きい都府県は、

生産基盤が弱体化している。」と述べ、廃業が都府県では六%近くにあがっていることを示しました。また、飼料価格が高騰しているにも係わらず生産者乳価は低下傾向であることから、消費者に理解を求める緊急活動を三ヶ月間実施することなどを説明しました。更に、米・豪・英国においては乳製品価格の上昇に伴い、生産者乳価も上昇しているデータを示しながら、「消費者に酪農の実情を理解してもらおうと共に、乳業メーカーの理解を頂きながら、来年度の乳価を適正にしよう運動を今から始めていきたい。」と述べました。

意見交換では、消費者団体の内藤英代消費科学連合会企画委員から「肉は既に値上りしているが、説明が後追いになっている。消費者に背景を伝えることが大事だ。」との発言があったほか、流通、外食産業の委員からは「消費者は値段が上がった商品を手に取らない傾向にある。ただ、日本に畜産は非常に大切なので、現場の需給状況を消費者に伝える努力が必要だ。」等の意見が出されました。

また、日本飼料工業協会会長の村井弘一委員は、「今年一年間の配合

飼料価格安定制度の補填金額は千億円以上となり、十月十二月期で基金は完全に枯渇する。だからといって補填しないわけにはいかない。借入れをしても補填はしつかりやっていく。ただ、農水省の協力が無いと出来ないことなので、この場で改めて支援をお願いしたい。」と、国に要請しました。

農水省の徳田正一畜産企画課長は、「飼料価格の高騰は一過性の問題ではない。行政だけでなく、生産・流通の各段階で努力することが大事だ。農家の生産性向上、行政の対応だけでは不足で、やはり価格転嫁を進めることが基本だ。」と述べ、吸収できないコスト上昇分は末端価格に転嫁せざるを得ないとの見解を改めて示しました。

意見交換のあと甲斐諭座長（九州大酪農研究院教授）は、「生産者は畜産の窮状について消費者に引き続き理解を求めていく。加工・流通業者は生産者と情報を共有し、適切な小売価格の形成に向けた環境作りに努める。消費者は生産者の実態に触れる機会を多く作る。」の三点を指摘し、「国は引き続き情報共有が図れるように努めて欲しい。」とまとめました。

10月ホクレン初妊牛市場成績

〔単位：頭、千円（税込）〕

市場名	開催日	成立頭数	平均価格	~400	401~450	451~500	501~550	551以上
十勝	10月10日	388	441	100	133	103	25	27
根室	10月11日	388	425	117	168	86	7	10
釧路	10月12日	223	415	92	104	15	5	7
豊富	10月18日	305	398	189	85	11	7	13
十勝	10月24日	402	431	125	156	83	10	28
根室	10月25日	358	403	180	138	28	5	7
北見	10月26日	356	421	134	151	50	3	18
合計		2,420	420	937	935	376	62	110
前月		2,079	443	394	798	656	139	92
前年同月		2,612	397	1,425	823	242	63	59

上記金額にはE T 妊牛価格を含みます。

家畜市場成績

平成19年10月

〔単位：円（税込）〕

市場名	種別	成立頭数	平均体重	最高	最低	平均
西那須野 30日	ホルス雄	138	59	42,000	110	18,023
	F 1 雄	92	57	144,900	46,100	80,405
	F 1 雌	73	49	93,450	6,800	52,107
館林 27日	ホルス雄	6	70	35,000	4,000	14,833
	F 1 雄	33	92	161,000	63,000	115,394
	F 1 雌	25	91	119,000	64,000	91,040



理事会だより

九月度理事会

報告事項

- (一) 資金貸付について
- (二) 九月份生産者支払乳価について

協議事項

- (一) 八月度事業実績について
- (二) 近代化資金貸付について
- (三) 遊休資産の処分について
- (四) 関東生乳広域検査所に係る本所改修工事について
- (五) 本所改修工事に伴う支所機能移転に係る事務備品の購入について
- (六) 診療課業務車両の取得について

十月度理事会

報告事項

- (一) 資金貸付について
- (二) 十月分生産者支払乳価について
- (三) 旧真岡事業所土地売却について
- (四) 酪農委員会開催報告について
- (五) バルククーラー保険の任意個人加入について
- (六) 平成十九年度乳製品消費拡大実施について

協議事項

- (一) 九月度及び上半期事業実績について
- (二) 宇都宮支所建設に係る入札業者選定について

お知らせ

宇都宮支所移転



関東生乳
販連の生乳
広域検査所
を着工する
にあたり、
宇都宮支所
(宇都宮市
平出工業団

地)が、ふれあい牧場敷地内(高根沢町)仮事務所に、平成十九年十一月五日に移転致しました。また、来年度に烏山事業所を統合し、同敷地内に新事務所が完成予定であることを併せてお知らせ致します。

移転先住所

〒三三二九 一一二三

栃木県塩谷郡

高根沢町大字下柏崎五四一

Tel 028 676 1504
Fax 028 676 2949

乳製品消費拡大

乳製品消費拡大のご協力について

昨年に引き続き乳製品消費拡大運動を実施することになり、中酪・関東生乳販連より昨年同様の配分がなされました。本組合での取組み数量は前年同様、前年度出荷乳量を基にランク別に配分致



しました。組合員の皆様には厳しい情勢の中でご負担になる事と存じますが、更なる消費拡大につなげて行くため、ご協力の程よろしくお願い致します。また、役職員におきましても個別に目標数量を設定し消費拡大を図って参ります。

芳賀地方「花」・「食」・「農」まつり

美味しさいっぱい、花いっぱいのイベントが、今年は益子町で開催されます。
今年最後の祝日のひとときを、家族みんなで、観に、食べに、買いに来てください。

- ◇日時 平成19年12月23日(日)
午前10時～午後2時(雨天決行)
- ◇会場 益子町民会館(益子町益子3667-3)
- ◇催し物 芳賀地方花の展覧会(展示・即売)
食の児童画コンクール入賞作品の展示・表彰式
芳賀地方の農産物(いちご、シクラメン等)、特産品の販売
手打ちそば、もちつき等の実演・販売
地産地消なべ、特製カレー等の飲食コーナー
食育コーナー(食事バランスガイド、メタボ対策相談等)
他にも楽しい催しがいっぱいです。
- ◇問い合わせ先 栃木県芳賀農業振興事務所(企画振興室)
Tel 0285-82-4438

